

そこが
知りたい!

くらしの金融知識

このコーナーでは、
くらしに身近な金融知識やその役立て方について、
有識者からわかりやすくアドバイスして頂きます。
今回は、「家計の見直し相談センター」の
藤川さんに登場して頂きました。

家計の見直し 4つのポイント

家計の見直し相談センター
藤川 太

●ふじかわ ふとし ●ファイナンシャルプランナー。日々、相談業務、全国各地での講演や新聞・雑誌・書籍への執筆を行う。著書に「生命保険料は半額になる!」「サラリーマンは2度破産する」など。

あなたの家計にも 危機が訪れる?

マイホームを購入したい、子どもを中学から私学に入れたい、などなどさまざま
まな夢を語ってくれたAさん。ところが、
「また世の中は厳しいし、家計的にこれら
を実現できるかどうか自信がありません」
と不安な様子。Aさんは家計の方向性を
検討するために、ご相談に來られました。

Aさんのプロフィール

Aさん	40歳	会社員
妻	40歳	専業主婦
長男	11歳	小学校5年生
長女	8歳	小学校2年生
年収	700万円	
貯蓄	600万円	
住居	賃貸マンション 家賃月12万円(駐車場代含む)	
教育 プラン	小学校までは公立、中学校からは私立に 入れたい。	
基本 生活費	月22万円、その他生活費年60万円、 保険料月2万円	

Aさんはある大手メーカーに勤めるサラリーマン。年収は平均よりもやや高めです。いまの会社で働き続けられれば、六十歳で一旦退職となりますが、その後六十五歳までは継続雇用で働くことができます。退職金は、二千五百万円程度もらえるそうです。

長男も小学校高学年になり、ついに「自分の部屋が欲しい」といい始めたようです。私立中学を目指して猛勉強中というところもあり、静かな個室を与えてあげたいところ。これまでは住宅購入についての勉強すらしておらず、あわててモデルルームの見学や、頭金の積立を始めました。

近隣のマンション相場は七〇平米台のファミリーマンションタイプで、三千〜四千万円が相場。頭金は少ないものの、営業員からは「住宅ローンの審査は大丈夫」と太鼓判を押しもらったようです。

ごく普通のサラリーマンのAさん。教育費は普通より高くなりそうですが、他は特に贅沢をしているようには見えません。

ところが、Aさんの家計の将来をシミュレーションしてみると、このままではAさんの家計はあつという間に金融資産残高がマイナスとなり、借金ができなければ破産

昔のように収入が右肩上がりに増えない時代なので、十年後、二十年後といった将来を睨んで家計を運営することが重要です。こうした長期的な家計の計画を「ライフプラン」といい、会社で言う「長期経営計画」のようなものです。家計も小さな会社と同じですが、ライフプランを立てている人は少ないのです。家計の経営が上手く行かないのは当たり前なのかもしれません。

ポイント1 夫婦で将来をしっかりと考えている

お金に苦労する家計は、今の家計しか考えていない家計が多いものです。たとえば、家を買うとき、家賃と毎月の貯金を考えて住宅ローンはいくらまで払えるかを決めます。一方で、お金に苦労しない家計は、子どもが大学に行く時期には、これだけお金がかかるだろうから、無理をせず住宅ローンはこのくらいにしておく、と考える傾向があります。

ポイント2 必要なお金は先にとっておく

家計の危機は浪費よりも突然お金がかかることが原因となりやすいのです。Aさんも住宅ローンを抱えた後に、子どもの教育費が重なるために家計が危機に陥ります。ライフイベントを予測していれば、事前に対策を立てることができま

お金の貯まらない多くの家計では、口座に給料が振り込まれ、生活費を使い、お金があまれば貯金、という管理をしています。これではなかなか貯金はできません。大きな買い物でローンを組み、ローンの返済でさらに貯金ができなくなる。家計が悪循環に陥りやすくなります。

ポイント3 固定費から削減する

家計が苦しくなると真っ先にターゲットになりやすいのが、食費、衣服費、そしてお父さんのお小遣い。せっかく家族のために一生懸命働いても、お父さんの評価は下

お金に苦労しない家計は「いつばい稼ぐ家計」でしょうか。これまでの経験から言うと、お金を稼ぐことよりも、お金を管理できることの方がずっと大事です。これまでも私が見てきたお金に苦労しない家計の特徴をみてみましょう。

お金に苦労する家計、苦労しない家計

ところが、一方で潜在的な家計の危機にも無縁で、お金に苦労しない人生を送ると予測される方も多くいます。お金に苦労する家計と苦労しない家計では、いったい何が違うのでしょうか。

してしまいかもかもしれません。下にある【表1】と十六頁の【表2】を見て下さい。それぞれの右側にある図表が、Aさんの家計の「現状」プランをもとに、将来の姿をシミュレーション分析してみた結果です。十年後、二十年後といった将来まで収入や支出、金融資産残高の推移を分析した表を、キャッシュフロー表とい

【図表1】Aさん家計のキャッシュフロー表

前年末の金融資産残高 600万円 (単位: 万円)

西暦	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2018年		2019年		2027年		2028年		2033年		2034年	
								51歳	52歳	60歳	61歳	60歳	61歳	2033年	2034年				
年齢	夫 39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	51歳	52歳	60歳	61歳	60歳	61歳	66歳	67歳	66歳	67歳		
	妻 39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	51歳	52歳	60歳	61歳	60歳	61歳	66歳	67歳	66歳	67歳		
	長男 10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	22歳	23歳	31歳	32歳	31歳	32歳	37歳	38歳	37歳	38歳		
	長女 7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	19歳	20歳	28歳	29歳	28歳	29歳	34歳	35歳	34歳	35歳		
家族のイベント	長女小学校入学	住宅購入		長男中学校入学	自動車買換え		長男高校入学	長女大学入学	自動車買換え	夫定年退職	自動車買換え	夫定年退職	自動車買換え						
収入	夫手取給与 2.0%	570	581	593	605	617	629	723	737	782	782	782	782	782	782	782	782	782	782
	退職金 1.0%									2,465									
	夫婦の年金収入 1.0%																		
収入合計		570	581	593	605	617	629	723	737	3,247	3,247	3,247	3,247	3,247	3,247	3,247	3,247	3,247	3,247
支出	月々の生活費 1.0%	264	264	267	269	272	275	295	277	278	281	278	281	295	298	295	298	295	298
	その他の生活費 1.0%	60	60	61	61	62	62	67	68	73	74	73	74	78	78	78	78	78	78
	住宅ローン 0.0%		89	152	152	152	152	152	152	152	152	152	152	152	152	152	152	152	152
	家賃・管理費等 0.0%	144	89	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34
	生命保険料 (注1) 1.0%	24	24	35	35	35	35	66	66	66	66	66	66	66	66	66	66	66	66
	イベント費用 1.0%		300			155			169										
	教育費 2.0%	58	88	120	174	180	216	251	112	251	112	251	112	251	112	251	112	251	112
支出合計		550	913	669	725	890	775	865	878	665	750	665	750	865	878	665	750	865	878
収支		20	-332	-76	-121	-273	-145	-142	-140	2,583	-471	2,583	-471	2,583	-471	2,583	-471	2,583	-471
金融資産残高	1.0%	600	274	201	83	-189	-337	-1,561	-1,717	1,301	843	1,301	843	356	359	356	359	356	359

見直し後プラン

(単位: 万円)

西暦	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2018年		2019年		2027年		2028年		2033年		2034年	
								51歳	52歳	60歳	61歳	60歳	61歳	2033年	2034年				
収入	夫手取給与 2.0%	570	581	593	605	617	629	723	737	782	782	782	782	782	782	782	782	782	782
	妻パート収入 1.0%				62	62	63	68	68										
	退職金 1.0%									2,465									
	夫婦の年金収入 1.0%																		
収入合計		570	581	593	667	679	692	791	806	3,247	3,247	3,247	3,247	3,247	3,247	3,247	3,247	3,247	3,247
支出	月々の生活費 1.0%	264	264	267	269	272	275	295	277	278	281	278	281	295	298	295	298	295	298
	その他の生活費 1.0%	60	60	61	61	62	62	67	68	73	74	73	74	78	78	78	78	78	78
	住宅ローン 0.0%		77	132	132	132	132	132	132	132	132	132	132	132	132	132	132	132	132
	家賃・管理費等 0.0%	144	89	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34
	生命保険料 (注1) 1.0%	24	23	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
	イベント費用 1.0%		300			155			169										
	教育費 2.0%	58	88	120	87	121	156	251	112	251	112	251	112	251	112	251	112	251	112
支出合計		550	900	635	605	796	680	800	813	600	727	600	727	800	813	600	727	800	813
収支		20	-319	-42	62	-117	12	-9	-7	2,648	-449	2,648	-449	2,648	-449	2,648	-449	2,648	-449
金融資産残高	1.0%	600	287	248	312	198	213	309	305	4,178	3,771	4,178	3,771	2,386	2,216	2,386	2,216	2,386	2,216

(注1) 現状プランの保険料は、保険期間が10年の特約で構成される保険商品を想定しています。そのため、10年ごとに保険期間が自動更新され、保険料もそのつど増加しています。見直し後プランの保険料は、更新による保険料の増加のない保険商品を想定しています。
 (注2) 表中の上昇率は、収入や支出の水準の上昇度合いをあらわします。本シミュレーションでは、今後の消費者物価が1%程度で緩やかに上昇していくことを前提にしています。統計的に教育費は消費者物価よりも若干高い上昇率を示しているため、今回は2%の上昇率としています。

がるばかり。これではやる気もなくなってしまう。

こうした費用はすべて「やりくり費」。やりくり費は手っ取り早く節約できますが、生活レベルの低下を実感しやすいお金です。しかも、節約は毎日続けなければならぬので単純につらく、長続きしにくいものです。

やりくり費の節約の前にやるべきことは、家計の固定費を徹底的に見直すこと。家計の固定費とは、家賃、住宅ローン、水道光熱費、通信費、保険料、といった銀行口座から定期的に引き落とされているものと考えると分りやすいでしょう。

こうした費用は日頃ほとんど注目することがないので、ムダが多く見つかるものです。これらのムダをなくしても生活レベルにはほとんど影響ありませんし、一度減らせば効果が長く続きます。見直しが難しく手間がかかるものが多いですが、それだけの価値があるはず。収入が上がるにつれ、気が付かないうちに生活のグレードが上がれば固定費が高くなりがちです。聖域をもうけず徹底的に見直しましょう。

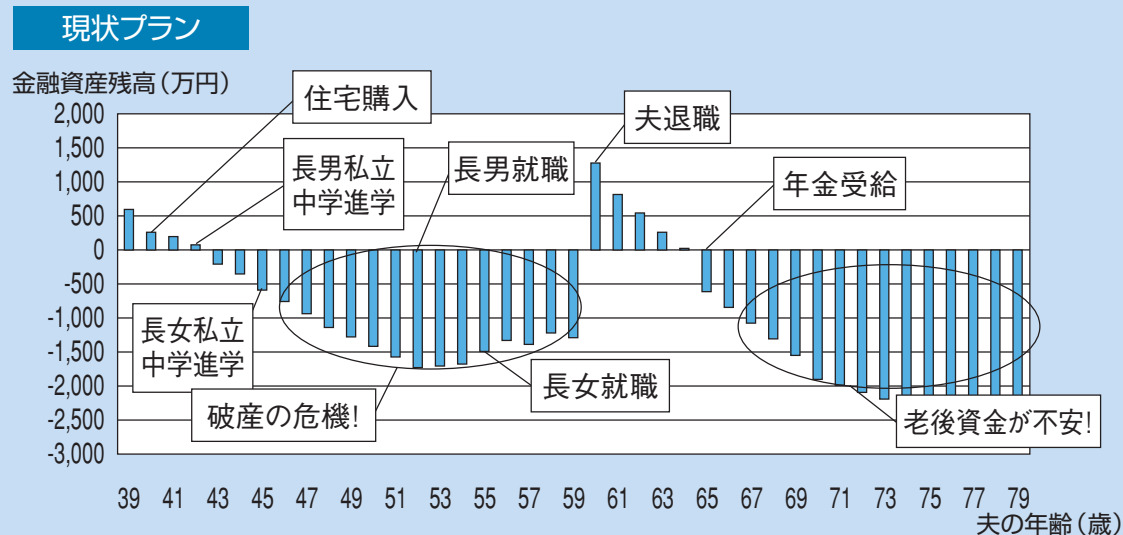
ポイントその4 比較検討をしっかりとできる

固定費を削減するには、無駄なものはない。解約・売却、必要なものであれば比較検討して安く購入します。ところが、食品やティッシュペーパーを買うときにはチラシを比べてお買い得品を探す人でも、住宅、車や生命保険のように金額が大きなものは比較検討しない傾向があります。こうした金額の大きいものは面倒ですが、しっかりと比較検討し一割でも安くできれば、数十万円、数百万円という効果が期待できるのです。

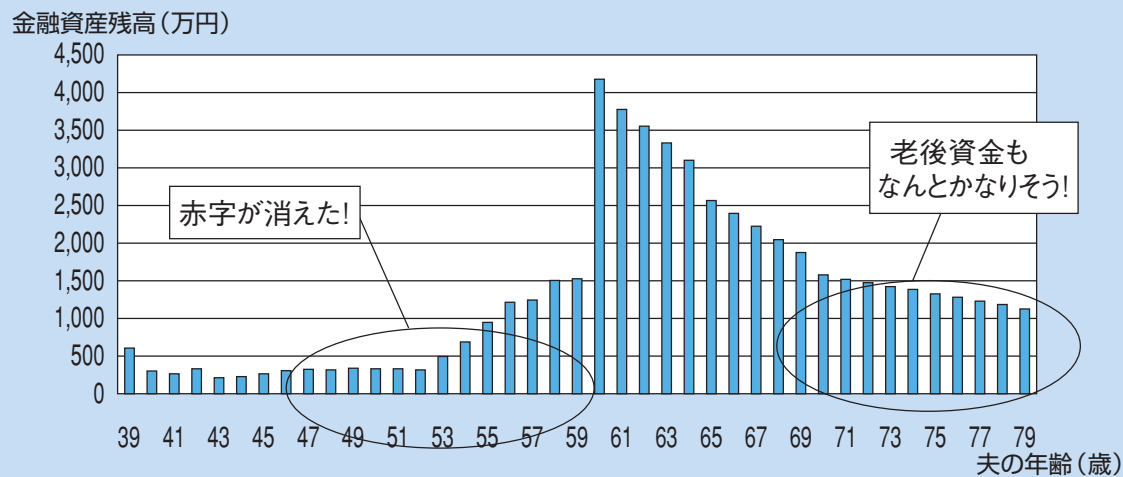
実際に見直ししてみよう

シミュレーションの結果をみて危機感を覚えたAさん。さっそく家計の抜本的改革に着手することになりました。これまでは奥さんに家計をまかせっきりにしていましたが、Aさんもライフプランを実現するために協力することにしました。Aさんの考えた見直しプランを見てみましょう。【図表1】と【図表2】のそれぞれの下側にある図表が、Aさんの見直しプランのシミュレーション結果です。奥さんは長

【図表2】Aさん家計の金融資産残高グラフ



見直し後プラン



男が中学校に通い始めたら、パートに出て年六十万円くらい稼いで家計を支えることにしました。これなら、あまり無理なく働けそうです。それとともに、Aさんも家事を分担し協力することにしました。長女が就職するまでの十二年間働くことにしましたので、これだけで七百一十万円の収入アップです。

次に住宅ですが、漠然と都会に住みたいと思っていました。こだわらないことにしました。選択肢として公立校で通わせたい学校がある郊外の物件を探して住むことも検討することになりました。そうすれば住居費も教育費も大幅に安くなります。いろいろと調査してみると、現在検討している物件よりも四百万円安くて、条件のいいマンションが見つかりました。公立に通えば、教育費も大幅に下がります。中学と高校が私立から公立になり、郊外とは言え大学にも自宅から通えそうなので六百五十万円近く教育費が少なくて済みそうです。

これら以外にも、生命保険や住宅ローンの選択など、固定費を抑える努力をし、食費などのやりくり費の見直しはしませんでした。それでも、見直し後のシミュレーション結果を見ると、Aさんの見直しプラン

の効果がよく分かります。教育費がかかる時期と老後に発生していた金融資産残高のマイナスがなくなっただけでなく、退職時には残高が四千万円以上にもなり老後資金が潤沢に残る計算となりました。

「こんなにお金貯まるなんて信じられませんが、でも、目の前が明るくなって、がんばる気持ちが出てきました。」と、Aさんは相談前の不安そうな顔がみるみる明るくなりました。

まとめ

家計の見直しが成功したケースを見ると、決して手軽なウルトラCはないことが分かります。大変な作業だからこそ、Aさんのように夫婦や家族が一丸となって取り組んだケースが多いのです。そのためにも、家族が実現したくなるようなライフプランを作ることがカギとなります。すべてを実現できなくても優先順位をつけて実現を目指してみよう。家族の意識が変われば家計の体質改善も一気に進みます。一日でも早く強い家計作りを着手して未来に備えていきましょう。